

2014年度 on i ビジョン番組審議会議事録

1、日時 2015年2月23日 午前11時～午後1時

2、場所 岡山シティホテル厚生町

3、委員の出席

(出席委員)

海野節子委員、清水修委員、内藤康裕委員、長門修二委員、西谷萬二委員、平田慎一委員、三浦好司委員、峰松妙委員、室義忠委員

4、会社側出席者

野崎誠二・代表取締役社長、平松一泰・専務取締役放送本部長
放送部) 吉井健二・副部長、佐佐木真紀子・課長補佐、竹重孝一・課長補佐

5、審議

「ぶらりんコ」、「地域別ニュース」、「ぶらり表町」、「つながる協働ひろば」について、審議を行った。

6、議事の概要(委員からの意見)

海野委員) ふだんテレビをあまり見ないが、御津ニュースは見ている。地域の顔を見ることができる。「笑顔をつなぐ」というテーマは良いと思う。横井小100周年で映像が残ったことは地域の財産だと思う。

清水委員) 今日あるイベントを今日映すのもよいが、「ぶらりんコ」のように地域の顔が見えるのもよい。

内藤委員) ケーブルは地域の気付かない魅力を発掘するのが使命である。「ぶらりんコ」はアポなしで難しい面もあるが心が和む。会話を引き出す力量がリポーターに必要。「ぶらり表町」は駅前にスポットが当たり商店街は地盤沈下する中、商店街の魅力、店主のこだわりを引き出していけばいい番組になる。「つながる協働ひろば」はいい企画だと思う。自分にできることはないか視聴者に考えてもらうきっかけになると思う。

長門委員) 足守は山間地域で人との触れ合いの場は民放では放送していない。しかし地域ニュースは再放送が続いている。これから地域の情報を発信していくので、足守の四季を映すことなども考えてほしい。また、イベントの紹介をする放送をしてほしい。

西谷委員) 昨日公民館文化祭を取材してもらった。地域として年寄りばかりでなく子供たち、若い人を公民館に入れていきたい。宮浦のはだかまつりのように継続的に地域をとりあげてほしい。3月15日には花回廊の桜まつりがあり「ふわふわ」や「無料の電車」がある。イベント当日だけでなく地域の取材を。

平田委員) 放送部の説明にあった通り、速報性・過度な演出がなく、自然な様子を見ることができた。地上波でも主催者が意図していることではないことが伝わることもあるが、o n i ビジョンのニュースは尺が長いので現場の様子がよくわかってよい。「ブラりんコ」はリポーターの力量によってつまらないこともよくある。

三浦委員) o n i ビジョンしか放送できないことをやってほしい。路地裏まで入っていく番組がケーブルのセールスポイント。地域の文化、マイナースポーツ(中学野球や水球など)他局が見向きもしないものは関係者からすれば愛着がわく。表町も店のことや専門性をとりあげれば商店街が活性化していく。

峰松委員) 山陽新聞の番組紹介欄に掲載すると地域の人が注目している。「ブラりんコ」は私たちが知らないことを引き出している。相手が素人なのでインタビュアーの力量が問われるが、佐佐木リポーターのインタビューは良かった。「つながる協働ひろば」はシリーズでやっていけばよいのではないかと。若い人をターゲットにし、まちづくりをしている人などに焦点を当てていったらよいのではないかと。

室 委員) o n i ビジョンの取材担当者は地域の人々の信頼を得ていると思う。年明けは鉄砲山の初日の出ウォーキングに元日から来てくれた。一人で取材をしながらインタビューをしていたのは良いと思う。子供のインタビューでは、子供たちの答えが良くなっている。教育としてもよいことだと思う。一方で、同じものを放送しているので繰り返し放送を減らして新しい放送をしてほしい。

海野委員) 地域としてもいろいろな情報を提供していきたい。地元の良さ、誇りが持てる視点を入れ、歴史・文化を掘り起こして放送して欲しい。

以上